

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	122生涯スポーツ・レクリエーションの振興		
施策のねらい (めざす姿)	スポーツをする市民が増え、一人ひとりが健康で明るい生活を送っています。		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	施策担当マネージャー	生涯学習部次長
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	マネージャー氏名	柴田 康弘

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	施設整備を進め利用者の拡大を図る。スポーツ施設への有料広告及びブリーディングライツによる収入増を図る。	③改革・改善内容	更なるスポーツ施設の拡充と施設への有料広告の募集を積極的に行う。
②①に基づく取り組み結果	弓道場・アーチェリー場建設事業や市営庭球場改修事業など施設整備を進め、利用者の拡大を図った。また、体育館アリーナでの有料広告を確保した。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	市民及び体育施設	意図(対象をどうするのか)	適切な相談・指導体制の下で組織・団体が育ち、スポーツ・レクリエーション施設の整備が進む中で、スポーツをする市民が増え、一人ひとりが健康で明るい生活を送っている。
②施策の概要	既存施設の維持補修や改修を進めるとともに、スポーツ施設を拡充することで、いつでも誰でも参加できるスポーツ環境を整備する。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	健康で豊かな高齢化社会を形成するためにスポーツの役割は増大するとともに、団塊世代以降の余暇活動が活発となり、スポーツ施設へのニーズが高まる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25～26年度の施策の成果	市民体育館や市営庭球場など既存施設の改修事業に加え、弓道場・アーチェリー場など新規施設の整備事業など計画通り完了した。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値(27年度)
	i	1年間継続してスポーツをしている市民割合(市民意識調査)	%	—	21.4	—	23.0
	ii	余暇時間にスポーツを行っている市民割合(市民意識調査)	%	—	12.6	—	13.5
	iii						
③基本事業成果指標	i	スポーツイベント・教室参加者数	人	10,989	5,571	12,058	7,200
	ii	体育協会登録団体数	団体	26	26	26	増加
	iii	スポーツ施設利用者数	人	326,780	207,152	316,141	314,000
	iv						
	v						
	vi						
	vii						
	viii						
	ix						
④施策の事業費	平成25年度決算	平成26年度決算	市民一人あたり事業費(26年度決算)	平成27年度予算			
事業費(千円)	210,696	146,943	(単位:円)	1,353	円		139,948

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	スポーツ施設の種別及び数において不足しているとともに、既存施設の老朽化が進行していることから、利用が制約され十分なスポーツ活動が出来ない。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	計画通り事業を実施してきたが、多くの施設が老朽化を迎えており、施設の詳細な状況を把握、整理する必要がある。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する事務事業	体育施設の管理運営に要する経費		
④上記方向性の説明	スポーツ施設の維持管理に係る経費は、指定管理者制度の活用により削減している。今後、陸上競技場など大規模施設の改修が計画され一時的にコストは増えるが、施設整備を拡充させることで使用者の増加が見込まれる。		